

生産・流通のニーズに対応

異常気象や作業効率化、品揃えなど

種苗会社が研究農場に産地関係者や流通業者などを招いて推奨品種を紹介する「オープンデー」が各地で開催されている。近年、異常気象や人手不足が問題視される中、耐暑性や耐寒性を備えた品種や作業性の高い品種の開発が進んできている。一方、おいしさやバラエティの豊富さなど、小売現場で求められる品種も。種苗会社のオープンデーで注目を集めた品種を紹介。

過酷な気象条件にも 収量確保できる品種 トキタ種苗

トキタ種苗は、埼玉県加須市の大和根研究農場でオープンデーを開催し、推奨品種や新品種を披露。2日間で約3200人が来場した。



イタリア野菜「グストイタリア」シリーズの圃場では、「カリノケール」(手前)や「カリフロール」(奥)に注目が集まった(トキタ種苗)

の発生が遅い。取り遅れても寒さによる葉痛みが少なく、作業に追われることがない。葉の緑色が非常に濃いので売場で新鮮に見える。こうした理由から「いま生産者から一番人気がある」(担当者)という。

ネギでは、過酷な気象条件に強い品種を多数展示。「森の奏で」(万能タイプ)は、葉がコンパクトで風に強く、最大風速32m/sを記録した台風でも倒れなかった。葉折れしにくく、厳寒期も葉が3枚しっかり残る。良い意味で鈍感力が高いため病気の

また、ゲリラ豪雨に非常に強い「TSX-543」や、とにかく夏の暑さに強い「TXN-521」なども展示(いずれも秋冬タイプ)。「TXN-521」は鍋用ネギ「なべちゃん」の改良版で、首の締りが良く葉が広がりやすい。



カボチャでは、新品種の「アクリ將軍ネオ」や加工の「アクリ將軍ネオ」が注目された(タキイ種苗)

向け専用品種の「TSX-820」を紹介。今年各地でカボチャの不作が伝えられているが、つるが大きくツチリ生育する「アクリ將軍ネオ」は、果量が2.2~2.5kgと大果になることもあり、収量を確保できているという。「TSX-820」は、

ヘタが小さく尻の部分の凹みが少ないため、加工機械で安定しやすい。平均果量は3kg、最大3.7kgまで肥大する。

ミニトマトでは、カラフルミニトマト「サンシトロン」「サンガーネット」などの新品種を紹介。白に近いクリームイエロの「サンシトロン」は、ジュシーで甘みと酸味のバランスが良く、レモンを思わせる味。果重は10~14g。寶石のガネットのような赤紫色の「サンガーネット」は、

めに揃う。トマトのハウス内では人気の「トマトベリー」の試食も行われており、多くの来場者でにぎわった。

作業性の向上や 産地ニーズに対応 タキイ種苗

タキイ種苗は2日間にわたり、茨城県の研究農場で研修会を開催した。ホウレン草やネギ、トマトの新品種を紹介し、来場者の関心を集めた。

ホウレン草はとくに出荷調整作業に時間がかかる品目。そのため、「収穫調整・パッケージングの時間をいかに短縮できるかが求められている」と同社。作業性とともに収量性、さらにべと病への抵抗性を備えたのが「福兵衛」(秋春どり)、「タフスカイ」(伸兵衛) (秋冬どり)の早生3品種。どれも軸は上を向いて伸び、しなやかなことから収穫しやすく、調整作業もスムーズ。さらに葉肉が厚く株張りが良いことから多収となる。暖地・中間地の場合、3品種で9月下旬頃から5月中旬頃まで収穫できる。

ネギでは夏秋どりの「名月一文字」を紹介。夏秋どりの中心産地とな

る北海道、東北などにおいても、近年は温暖化への対応が必要となっている。同品種は耐暑性を備え、葉(葉身)をコンパクトにすることで風による倒伏を抑えるようにした。また、皮むきが容易で、出荷・調整作業の時

間軽減も期待できる。一方、大玉トマト「桃太郎ネクスト」は、促成栽培で収量も、おいしさも欲しいという生産者や産地の要望に応えた品種。花数が多く収量性に優れたうえ、糖酸バランスの良い食味を実現させた。